

令和2年度平群町介護保険運営協議会・地域包括支援センター運営協議会（第1回）	
<p>■日時 令和2年（2020年）7月21日（火曜日） 午後2時40分～</p> <p>■場所 プリズムへぐり 2階 会議室1・2</p> <p>■出席者 松田美智子会長、福田副会長、松田充隆委員、泉谷委員、井戸委員、稲月委員、岡委員、中田委員、中谷委員、新名委員（10名）</p> <p>■欠席者 なし</p>	
1. 開会	
事務局	只今から、令和2年度第1回平群町介護保険運営協議会並びに地域包括支援センター運営協議会を始めさせていただきます。それでは、初めに、松田会長よりご挨拶をお願い致します。松田会長、宜しくお願い致します。
2. 挨拶	
松田会長	今回は、各事業における令和元年度の状況及び、令和2年度の進捗状況についての報告となっております。策定委員会に引き続きの会議でお疲れのことと思いますが、よろしくお祈りします。
事務局	有難うございました。それでは、早速、議事に移りたいと思います。議事進行について、松田会長、宜しくお願い致します。
3. 平群町介護保険事業等の状況について	
松田会長	それでは、本日の議事に入ります。まず初めに、『介護保険運営協議会』から始めたいと思います。「3. 平群町介護保険事業等の状況について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	福祉こども課の今村です。資料1について説明致します。 <p style="text-align: center;">－ 平群町介護保険事業等の状況について説明 － 資料1</p>
松田会長	有難うございました。只今、事務局より説明がありましたが、何かご質問やご意見等はありませんか。
稲月委員	7ページの令和元年度の介護保険特別会計の決算報告ですが、令和元年度についても収支が黒字ということで、4,078万9,674円の余剰金がでたという報告がされています。もう第7期は今年で終了しますが、第6期の終わりに、第7期の介護保険料を決めました。そのときに、基金を1億5千万円取り崩して、若干ですが、500円程度、介護保険料を引き下げようとなりました。それにもかかわらず、取り崩すことなく、さらに毎年、上乘せとなっています。令和元年度は返還分が多かったので少し減っていますが、それでも4億3,887万6,030円基金が積み上がるということです。これについては、6ページの歳入の方にあるように、65歳以上の第1号被保険者、私もその中の一人ですが、その1年分の介護保険料とほぼ同じ額という状況になっています。第1号被保険者の我々が、これだけたくさん保険料を払ってきたということで、これを還元したら、3年で1期なので、単純に考えたら、今の保険料の3分の2払ったらいいというふうに考えられます。取りすぎているという状況は、何年も続いています。この間の反省というか、どのようにこれを見ているのか。計画との比較で言えば84%

	<p>の執行率ということで、やり方がずさんとまでは言わないですが、乖離が大きすぎるといのは、毎年指摘させていただいているところです。第8期の計画でも大きな問題になると思いますので、事務局としての考えを聞かせていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>只今、稲月委員から、基金や計画と実績の乖離の関係のご質問をいただいたかと思ます。基金につきましては、ご指摘いただいたように、令和2年度末で4億3900万円弱を積み立てる予定になっております。当初、第7期の計画を策定する際に、3年間の給付の見込みを算定したわけですが、その見込みと、平成30年度と令和元年度の実績に乖離が出ております。その結果、基金が積み上がっているというのは事実であります。実際、令和元年度につきましても、計画に対する執行率は84%で、その分乖離が出てきています。当初見込んでいた施設サービスの利用が少なかったことや、居宅サービスも計画ほどは利用がなかったことなどの要因で、結果的にこのような金額の差が出ていることに違いはありません。現時点では、令和2年度がどうなるか分かりませんが、基金につきましては、議会でもご説明しているとおりの、保険料の上昇の抑制などへの活用に努めて参りたいと思ます。</p>
松田会長	<p>稲月委員、よろしいでしょうか。他に、質問はございませんか。</p>
井戸委員	<p>先程、決算報告で数字が出ていましたが、来年度次第ではあります、基金残高はどの程度に抑えようと思っておられるのですか。たぶん保険料減になると思うんですが、保険料減も将来を考えると難しいですし、今回、新たにデマンドタクシー導入に向けたお金も発生するわけで、その影響も踏まえると、保険料減の幅にどのような影響が出てしまうのか。今わかっている範囲で結構ですので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>どのくらい基金を活用するかというお話かと思ますが、今回、前半の策定委員会でお話したように、ニーズ調査などのアンケート調査を行い、今後のニーズによる推計値をもって、保険料を決定することになります。そういった結果を踏まえながら、基金について有効に活用していきたいと考えています、具体的な数字については、現状では申し上げられませんが、ご了承ください。</p>
松田会長	<p>井戸委員、よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。すみません、一つお聞きしてよいですか。6ページの表ですが、2号被保険者の保険料はどれになりますか。</p>
事務局	<p>支払基金交付金の介護給付費交付金と地域支援事業支援交付金の両方です。</p>
松田会長	<p>なので、介護保険は別に1号被保険者の方だけが負担しているのではなく、2号被保険者も負担しているわけです。集計表にするとこういう形になると思うんですが、別に65歳以上だけが拠出している保険ではないということ、ひとつご理解していただきたいと個人的に思ます。この会議では、表の作り方など、事務局にご協力いただいてグレードアップしてきていると思うんですが、例えば、この6ページ・7ページの表のご説明をしていただく時に、A3サイズになって見やすくなったのですが、比率を見るために複数並んでいますよね。できたら次の時は、全部読み上げるわけではないので、注目してほしいところだけ色をつけるなどしてもらえたら、聞いている人が理解しやすいかなと思ます。それと毎回、実績との乖離というのは、正確に予想できる人は誰もいないですから出てくると思うのですが、基金の積立残額を何円に維持するのが適正な</p>

	<p>のか金額だけを問うのではなく、ざっくり見ると平群町では18～19億円くらいの介護保険特別会計を担っていますね。そうすると、やはり赤字になったら困りますし、広い世代の支持も得る必要があります。そのために、先程2号被保険者の話もさせていただいたのですが、みんなのための社会保険制度であるわけですから、若い世代の理解も得なければなりません。18～19億円くらいの執行予算の予備費、という大変ですが、基金の位置付けはそんな感じですよ。その基金がどれくらいあったら安心なのか、参考になる資料を出していただければと思います。その金額だけの問題ではないと思うんです。さっき1号の保険料と同じ額ではないのかというご意見がありましたが、2号からも同じくらい出ているわけです。単に金額につられるのではなく、この規模の会計予算の中で、基金残高をどれくらい持っておくのが妥当か、参考になる資料をいただくと、毎回、実績値との乖離がご意見やご質問で出てきていますし、次の保険料を決める際にも参考になるのではないかという気が致しました。すみません、私があまり喋るといけないので、何か他にございませんか。他に質問等がないようですので、次に、「4. 平群町地域支援事業について」、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>4. 平群町地域支援事業について</p>	
事務局	<p>福祉こども課の貞岡です。資料2について説明致します。</p> <p style="text-align: center;">— 平群町地域支援事業について説明 — 資料2</p>
松田会長	<p>有難うございました。只今、事務局より説明がありましたが、何かご質問やご意見等はありませんか。</p>
泉谷委員	<p>どこもコロナの影響で、注意しないといけないことが多いと思うんですが、百歳体操など、今までやっていたことを再開される時に、どの程度注意されていますか。</p>
事務局	<p>百歳体操は地域の方が主体になっていますので、なかなか押し付けてというのは難しいのですが、できるだけ飲食を禁止していただいたり、密にならないように人数も少なく、今まで1回でしていたのを2回に分けていただいたり、というのをしていただいています。あと換気ですね。どうしても自治会館とかは狭かったりするので、窓は開けたままでクーラーを入れるなど、換気を徹底していただいています。そういった注意事項をまとめたものを配らせていただいております、皆さん細かく守って実施してください。</p>
井戸委員	<p>いろいろ聞いておりますと、他府県の方からみると、奈良県の対策は甘いとよく聞かれます。実際、平群町はいち早く体育施設開けたり、かしのき荘も開けたり、もちろんその要望があつてのことで、分からなくもないのですが、ただかかったら一発アウトというくらい重症化する傾向がございますので、いろんな部分が早く回復しすぎかなと思うんです。ですから、先程10月からいろいろ再開する予定でおられるようでしたが、そこは慎重になっていただいて、WHOもまだ飛沫感染なのか空気感染なのかちゃんとした回答を出していないですが、空気感染だとしたらあらゆる現場で大変なことになると思います。私が見る感じでは、行政全般として、危機管理という意味では、回復に向けて早く動きすぎたと感じるので、是非とも慎重にさせていただきたいです。特に高齢者が</p>

	関わって参りますので、これはお願いなんですけど、10月からと決めずにその時の状況、平群の土地柄を見て、極力ゆっくり、遅めに、私としてはかしのき荘も大丈夫かなと心配なんですけど、開けておりますので、そのへんはよろしくお願いします。
松田会長	ご要望ということでよろしいでしょうか。
井戸委員	そうですね。要望です。
松田会長	他いかがですか。
新名委員	分かる範囲で教えていただきたいのですが、介護予防普及啓発事業のところでは人数が書かれているのですが、この参加されている方は結構どの市町村でも重複している方が多くて、対象の高齢者の大体何%ぐらいの人が参加しているのかなと思うんです。フレイルの話が出ていたと思うんですけども、こういう事業に参加できない人がフレイルの人であることが多く、そういう意味でも、いきいき百歳体操は地域に根付くというところで皆さんが参加しやすい状況であるんですけど、地域的な場所の数であったり、そこにある自治体の会合、自治会・老人会などいろいろありますが、それを全部合わせても14か所というのはものすごく少ない状況だと思うんです。なので、予防事業全体として、進み方ってどうなのかなと考えるところがあったのでお尋ねします。
事務局	百歳体操だけではなく、元気アップ教室やウォーキング講座、ラジオ体操講座などいろいろやっておりまして、どの層をとってやっていくのかということになるかと思うんですけども、確かに高齢者が多い中で、十何名が少ないと言われてしまえば、それまでなんですけど、さらに広げていくということで、いきいき百歳体操の方も14か所の方がすごく良いよと発信して下さって、少しずつ広がっていけばとは思っています。参加者が高齢者の何%かというのは、出せておりません。
新名委員	先程、地域から依頼があれば啓発して支援していくというお話でしたが、なかなかそれだと活動しにくい自治会があると思うんです。高齢の方ばかりで、お世話役になる方がなかなか出てこなくてできない。そういったところへの働きかけというのは、どういふふうにされているのでしょうか。
事務局	実際されていないところへの働きかけですかね。
新名委員	先程の会議の資料でもありましたが、ポストが遠い、バス停が遠い、というところは特に注意しないとイケないと思うんです。そういうところの方こそ拾い上げていかないとイケないんですが、なかなかそこでお世話役さんになる方がなかなかいらっしゃらなくて、この百歳体操が広がっていかない状況だと思うんです。すごく活発的にいきいき百歳体操を広げられている地域というのは、お世話役さんを育てていくではないですが、お願いして行ってということで、中央の方が非常に活発的に入っていると思うんです。そのへんは平群町はどうなんでしょう。
事務局	14か所は、決まった地域の方でされているんですけど、自分の地域にない方たちが参加できるフリーの百歳体操が、かしのき荘にあります。参加はしたいけれども、主体となってしまうとちょっと、という方がどうしても多いので、続けるには地域に根付かせていきたいということで、そこでやり方をお伝えして、地域に持って帰ってやろうと思っただけのように活用したいということでやっております。あと、百歳体操の交

	<p>流会も開いておりまして、その中で新しく始めようという思いになっていただければとも思っております。人数を増やすだけでしたら、どんどん派遣して広げるのはできると思うんですが、地域に根付いてもらわないといけないので、何もかも行政がするのではなく、地域の方の力を引き出してお貸しいただきたいというところで、ゆっくりになってしまうと思いますが、そちらを進めていかないといけない事業だと思っております。</p>
新名委員	<p>やはり平群の下の方に来れる方は、元気な人なんですよね。山手の方で、動きたいけど動けない方々を拾い上げていかないと、介護保険も圧迫してくると思うので、よりいきいき百歳体操の育成員をどんどん広げていく、育てていく事業もしていただければと思いました。</p>
松田会長	<p>新名委員は全部行政で面倒みなさいと要求しているわけではないと私は思います。リンクワーカーって分かりますか。例えば、イギリスは資本主義の国ですけども、コミュニティワークがすごく整っている国ですよ。そこでどういうことをしているかという、今おっしゃったように、その地域の中で住民の人がリーダーになってくれるまでを育てる、サポートをするというような取り組み方をされています。行政の職員だって人を減らされてギリギリでやっているのは皆よく分かっていると思います。育つようなサポートのことをご提案されているのではないかと、私は思いました。他、いかがでしょうか。</p>
井戸委員	<p>僕も、百歳体操をしたいけどどうしたらよいのかと相談を受けたことがあるんです。参加したい人が必要というのは知っていたので、まず地域でどうやったらできるのかと話していたんですが、かしのき荘でしていると今聞きまして、そういう住民さんに対してどうお答えしたらいいでしょうか。</p>
松田会長	<p>かしのき荘って老人福祉センターですか。</p>
井戸委員	<p>そうです。ローカルな話をしてしまいまして、すみません。コロナ中でも、やっておられるんですか。</p>
事務局	<p>会長、すみません。百歳体操は、地域包括支援センターに支援いただいておりますので、地域包括支援センターからご説明させていただきます。</p>
事務局	<p>平群町地域包括支援センターの今村です。よろしくお願いいたします。百歳体操ですが、今14か所ということで、なかなか広がりが出ていない部分というのはすごくあるのですが、昨年度末から今年度初めにかけて、2か所、話が出ていたのですが、コロナの関係で、私たちも積極的に働きかけられなくて実施できないという状況がありました。今少し落ち着きかけているということで、今日職員が行っているんですが、8月から1か所立ち上がる予定です。あともう1か所は、コロナウイルスを皆さん怖がっておられて、もう少し落ち着くまで見合わせたいというお話があって、我々も今なかなか地域に出て、頑張ってやっていきたいと思いますというのが、非常に言いにくい状況ではあります。もし、地域の方から百歳体操に関するご相談がありましたら、地域包括支援センターにご連絡いただいて、そこで、その方がおられる地域でしていくのか、もしくは他のところをご紹介できるのか、ご相談にのらせてもらいたいと思います。先程、お話にありましたように、地域で中心となってくださる方を育てるというのはすごく大切なことだと</p>

	改めて感じながら聞かせていただいたので、そちらも考慮しながら事業を進めていきたいと思います。
松田会長	<p>平群だけではなくて、どこもコロナのために開催できなくなっていることってたくさんあると思うんです。なので、根本的に違う方法も検討しないといけないですね。百歳体操って一人でやっても意味がないのですか。何人かで集まってやらなければならないものでもないと思うんです。家で一人でやっても、一部やっても、要は何が目的なのかが大事だという検証も、こんな時期なので必要なのかもしれませんが。フレイルの研究は結構進んでいて、面白い報告をこの間読んだところなんですけど、80歳くらいのフレイルっぽい人たちを対象に、2年間追跡しているんです。その人たちが体操ジムみたいなのところに行って、一生懸命やっているおじいさんと、毎回来るけどほとんど怠けて何もせずに喋っているおばあさんと、2年後にどっちが要介護度あがっていたと思いますか。そんな報告が結構多いんです。集うとか、どこか出かけていくところがあるというのは大事なことだとは思いますが、集い方が問題であったりします。フレイル予防など健康寿命を延ばすということは介護保険の予算にもかえってくることであって、今やっと科学的な根拠が積み上がってきているところでもあるので、今すぐ答えは出ないことですが、考え直さないといけないことがあると思います。私が勤めている学校もそうなんですけど、今までの大学みたいなのは、こうなったら成り立たないわけです。ということで、よろしいでしょうか。それでは、引き続きまして、『地域包括支援センター運営協議会』に移りたいと思います。</p>
5. 平群町地域包括支援センターの運営状況について	
松田会長	初めに、「5. 平群町地域包括支援センターの運営状況について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>地域包括支援センター今村です。資料3について説明致します。</p> <p style="text-align: center;">— 地域包括支援センター運営状況について説明 — 資料3</p>
松田会長	有難うございました。只今、事務局より説明がありましたけど、何かご質問やご意見等はありませんか。最後に、「6. その他」について、本日の議事のほかに、何かご質問や聞いておきたいことはございませんか。
6. その他	
岡委員	<p>介護予防関連の事業で、例えば百歳体操が、3か月後、半年後の体力測定で効果があったという話もあったかと思います。私は高齢者に有効な体操だと思っているので、本当に百歳体操が必要なら、これをもっと組織的に進める方向に賛成です。そのためにも、高齢者に有効だと示すデータ、例えばこれに参加した100人の3か月後、6か月後、1年後、3年後ぐらいのデータをとって、それが結果的に毎回増えていく介護保険料を抑えることにもなる、そういうデータを一緒に提示できればいいのではと思います。それで介護保険から支出されているものが5,000万円減ってきたとなれば、その5,000万円を、事業を活性化する組織に投入したらいいわけですよ。その方が、ずっと効果的ではないかと思います。そんな考えで、事業を進める時期がきたのではという気がし</p>

	<p>ます。それをやったからといって、何か良いことがあるのかと聞かれると、健康でいられることとなりますが、健康だと一番負担することになります。けど、それ以外にこういうプラスもあると言えるデータが欲しいんです。ですので、お考えいただけるなら、要望としてお願いしておきたいと思います。</p>
松田会長	<p>ご要望ということでもよろしいですね。他、いかがですか。では、本日は暑い中、長時間お疲れ様でございました。以上で、本日の議事は全て終了いたしました。進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。</p>
7. 閉会	
事務局	<p>松田会長、議事進行ありがとうございました。委員の皆さん、長時間にわたり、慎重にご審議いただき有難うございました。本日のご意見等につきましては、今後の参考にさせていただきますと思います。次回の介護保険運営協議会は、来年2月頃を予定しております。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和2年度第1回平群町介護保険運営協議会並びに地域包括支援センター運営協議会を終了させていただきます。</p> <p>本日は、どうも有難うございました。</p>

閉会 午後4時5分